

# 自分たち組織や取り組みの **インパクト**は何か

寄付者や賛同者にどのように自組織の **ユニークな価値** を伝えるか

いかにして自組織単独では難しい社会変容を描き、**パートナーを広げる**か

私たちは、社会課題に取り組むときにこのような悩みや行き詰まりにしばしば直面します。どうすればより多くの関係者たちとうまく協働し、「現実の望まし変化」につなげることができるでしょうか？ そのための方法論のとして変化の理論とシステム思考の活用が効果的です。

## プログラム

### 1日目

変化の理論とは何か、また、他にどのような手法があるのかを踏まえた上で、変化の理論にはどのような意義があるかを学びます。事例をもとに変化の理論の実践ステップを紐解き、さらに実践上有用となる理論の検証とコミュニケーションについて学びます。NEFコンサルティングの実施するプログラムをベースにした内容になっています。

- ・ 計画策定と評価における変化の理論(TOC)の役割
- ・ アウトカムとして語る
- ・ TOCと他のインパクトフォーマット
- ・ TOCの実践事例
- ・ TOCを策定するプロセス
- ・ グループ演習課題選定

### 2日目

より日本の文脈での変化の理論実践の探求に役立てるよう、国内の社会課題をもとに、変化の理論を描く練習を行います。社会変革の変化の理論では、しばしば社会システムの変容、つまり、課題をとりまくさまざまな利害関係者の営みとその相互作用を変える必要があります。そこで、システム思考の考え方とツールを活用して、今の現実の状況やパターンの文脈の理解を深めます。ついで、目指す状態に変容するためには、何が、なぜ、どのように変化する必要があるのか、そのために、どのようにシステムへの介入を設計・再設計するのか、また他に必要となる条件は何かを描きます。最後にそれぞれの発表を聞きあって学びを深めます。

- ・ TOC実践(1)ステークホルダーとビジョン
- ・ TOC実践(2)システム思考で今の現実を明らかにする
- ・ TOC実践(3)アウトカム、活動、外的要因
- ・ 発表と討論
- ・ TOCまとめと振り返り

(プログラムは予定です。セミナーの効果を高めるため一部変更となる場合があります。)

## 期待される効果

- ・ 変化の理論(TOC)の重要性や他の手法との違い、活用場面を理解する
- ・ シンプルな変化の理論(TOC)を策定し、重要なアウトカムを特定できる
- ・ より複雑な変化の理論(TOC)に欠かせないステークホルダーのエンゲージメントやシステム思考の実践方法を学ぶ



## コース紹介ムービー



## 参加費

99,000円

(10% 税込)

NPO 割引 (30 % 割引) がご  
ざいます。詳細はお申し込み  
サイトよりご確認ください。

## お申し込み・セミナー詳細



[https://www.change-agent-jp/products\\_services/leaders/social\\_innovation/si01.html](https://www.change-agent-jp/products_services/leaders/social_innovation/si01.html)

英国NEFコンサルティング共同開発  
社会変革セミナー

# Theory of Change

社会的インパクトを  
創出する

# 変化の理論

「変化の理論」策定手法とシステム思考を活用！  
国際的な方法論・原則と事例を実践的に学ぶ **2**日間

2026 **1/20-21** 9:30-17:30  
**開催**

東京都中央区会場  
(日本橋駅徒歩2分)

## 「変化の理論」とはなにか？なぜ必要か

望ましい変化が、なぜ、どのように起こるのか、どのような活動が目標とする変化を産むのかについて、包括的にわかりやすく描写した理論、あるいはストーリーのことです。関係者をまとめ、問題に対する共感しあえるビジョンを設定し、そのための活動や道筋を整理して共有するための強力な方法論です。「戦略ストーリー」にも似ていますが、変化の理論という呼び方は、いわゆる「共創、あるいは「コレクティブ・インパクト」と呼ばれるような多様な関係者たちの参画とコラボレーションを必要とする際に使われます。

## 社会課題への取り組みに求められる「変化の理論」

近年、海外では多くの国際機関、基金、財団などがプログラム申請の際に「変化の理論」の作成添付を必須条件とすることが増えてきています。公共のためのリソースをより効果的・効率的に配分する説明責任を果たす上で、また資金提供者とのコミュニケーションにおいても明確な「変化の理論」を持っているかが重要視されるようになってきています。

## 実績ある英国プログラムの導入とシステム思考でアプローチ

本セミナーは、ソーシャル・イノベーションの分野で豊富な実績をもつ英国の NEF コンサルティング社の人気定番コースをベースに、さらに日本の事例や日本の文脈と、チェンジ・エージェント社の強みであるシステム思考による現状分析のアプローチを加え、より戦略的で実効性のある変化の理論策定プロセスを紹介します。

多様な業界・セクターから参加者が集まる、一種のマルチステークホルダープロセスを疑似体験できる機会でもあります。あなたの組織やプログラムの「変化の理論」を考えるための方法論と一緒に学びませんか？

講師 小田 理一郎 (チェンジ・エージェント社 代表取締役)

オレゴン大学経営学修士 (MBA) 修了。多国籍企業経営を専攻し、米国企業で10年間、製品責任者・経営企画室長として組織横断での業務改革・組織変革に取り組む。2005年チェンジ・エージェント社を設立、人財・組織開発、CSR経営などのコンサルティングに従事し、システム横断で社会課題を解決するプロセスデザインやファシリテーションを展開する。サステナビリティの科学者と実践家たちの国際ネットワーク「バトン・グループ」役員。大陸横断で持続可能な食料システムを目指すコンソーシアム「サステナブル・フード・ラボ (SFL)」の中心人物たちと親交を重ね、世界資源研究所 (WRI) の生態系サービスレビュー実務などに携わる。また、JICA で国内外の専門家に研修を実施するほか、東南アジア、アフリカなど途上国でのサステナビリティ・リーダー養成に携わる。著書に『学習する組織』入門』『企業のためのやさしくわかる生物多様性』他

